

2018年3月期第2四半期決算 IR説明会(2017/11/8開催)質疑応答内容

【2018年3月期 業績・見通し関連】

- Q: 通期見通しを据え置かれたが、改めて下期での市況前提の置き方について教えて欲しい。
- A: この下期、石炭は、3Qは足元スポット価格に合わせ、4Q以降は中国の炭鉱操業再開等の影響を加味し、一般炭 US\$75/トンそのまま据え置いている。その他の鉱物資源、銅、アルミも同様に、3Qの前提条件は足元価格とし、4Qは期初前提のままという形にしている。
- Q: 上期に関係会社整理損として一過性の損失が発生しているが、下期以降、資産入替での損失が発生する可能性があるかとみているのか。
- A: 期初見通しに織り込んでいた資産入替コストは今回発表した通期見通しではまだ残している状態である。今後、一過性損失が発生する特定の案件はないが、損失の要素が出てきても500億円はボトムラインとして守ることは可能である。
- Q: 投融資の今期の進捗について、案件の規模感について教えて欲しい。
- A: 事業買収等では小さい案件では効果が期待できないため、100億円～200億円という所が大体の規模感になると考えている。
- Q: 上期の投融資900億円の内、どれくらいが在庫等の運転資本に入っているのか、また、どれくらいの期間で回収することを想定して投資しているのか。
- A: 投資活動によるCFは上半期で▲376億円の出超だが、新規投融資が▲450億円。従って、上半期の新規投融資の内、450億円が営業資産勘定で、投資性資金としてカテゴライズしており、投資或いは、期間が中長期に渡る融資と比べて、比較的短期での回収が可能と考えている。
- Q: 仮に今期業績が期初計画500億円対比で上振れた場合、配当はどうなるのか、考え方について教えて欲しい。
- A: 配当については、下期の決算が出た時点で、改めて検討させて頂きたい。

【次期中期経営計画関連】

- Q: 来年度からの次期中期経営計画に向けて、今後、藤本新社長がどういった点にこだわって進めていきたいか、について教えて欲しい。
- A: 次期中計はディスカッション中だが、過去の中計と連続性のあるものというのが当社の考え方である。今中計の投融資計画3,000億円はほぼ達成可能な進捗だが、次は、この実行した投融資から収益を上げていくことが一番大切だと考えている。
- Q: 投資に対する収益の刈取りについて、投資に対するリターンのタイムラインを教えて欲しい。また、今後どのような分野に期待しているのか。
- A: 自動車ディーラー事業や化学品商社の買収等、即効性のある利益はこの中計期間中に収益貢献し、50億円程度の利益になる。また、実行した投資の中にはIPP案件等、建中期間があるものや、グリーンフィールドから始めた案件もあり、このような案件が次期中計までに収益として実現させることを目指している。その他に、まだ時間はかかると思うが、アジアでのコンビニエンスストア事業や三温帯物流事業を育成し、収益が伸長すると期待している。確実に収益が期待できるものとしては、風力・太陽光・火力発電等のIPP事業、インドの鉄道事業等。

- Q: 足元の業績は好調だが、来期、次の中計に向けて注目しているビジネスや、期待できるようなポイントがあれば教えて欲しい。
- A: 環境・産業インフラでの電力事業、エネルギーでは LNG 受入基地とその下流事業、航空産業・情報では、パーツアウトやビジネスジェット、空港事業を拡大していく。自動車ではディーラー事業や今回買収した部品検査会社等の広がりを出していく。中長期目線としては、アセアンで食料、食品、農業等の事業へ投資してきており、5年・10年の目線で拡大させていく。
- Q: 今中計では、投資を年間平均で 1,000 億円程度のペースで積み上げてきたが、来期では、投資の規模感として 1,000 億円をもう少し拡大出来ると考えているのか、または FCF をプラスにする等、財務のバランスを見るのか、どのように考えているのか教えて欲しい。
- A: 投資に対する方針は、従来から変更はなく、基本的にある一定期間の FCF をプラスにし、財政規律を守りながら投資を継続していく。
- Q: 今期の ROA の見通しが 2.1%だが、次の中計でどの辺のレベル感を想定しているか、目指したいのか、ROA についての考え方を聞きたい。
- A: 次期中計の数値目標はディスカッション中だが、今中計では ROA を 2%、ROE 8%という数字を掲げ、その先に目指すべき姿として、ROA 3%、ROE 10%という数字も同時に発表している。中計は連続性があるものと考えているので、ROA 2%を達成した場合には、次の目標として ROA 3%が目標となってくるのではないかと考えている。

【事業セグメント関連】

- Q: 自動車事業は極めて好調に推移していると思うが、足元の状況と目先のリスク要因があれば教えて欲しい。
- A: 自動車は非常に好調に進捗している。プエルトリコで現代自動車のディストリビューター事業を行っているが、ハリケーンの影響により、販売がどの程度回復するのかという問題や、北朝鮮問題により、韓国から自動車が出てくるのか等がリスク要因になると考えている。
- Q: 北米の自動車部品検査会社への投資で、広がりを出していくとのことだが、どのようなことを考えているのか。
- A: 当社は、従来から北米で自動車部品の配送・セミアセンブリー事業を手掛けており、自動車メーカーからは、部品の全品検査を要請されるケースが多々あるため、今回の自動車部品検査会社の買収は、既存事業との親和性を追求しやすいことから、投融資を実行したものの。
- Q: LNG 受入ターミナル事業について、注力事業として今後も出てくるであろうと考えているが、双日は、ここにどういう強みがあり今後取り組んでいける素地があるのか、ある程度案件も見えているのか、今後の展開について教えて欲しい。
- A: LNG 事業は、歴史的に他商社と比較して早くから事業に参入し、一定の強みを持ち、電力会社との関係においてもある程度確立したものがあつた。今後、アジアの新興国では、石炭発電からガス発電へのシフトが予想され、LNG の輸入国となる所もある為、LNG ターミナル建設運営、LNG 調達までを目線に入れてワークしていきたい。

以上